

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
分担研究報告書

拠点病院における緩和ケアの評価に関する研究

分担研究者

木澤 義之 神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 先端緩和医療学分野 特命教授
中澤 葉宇子 国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援研究部 研究員

研究要旨 本邦では緩和ケアに関する様々な施策が実施されている。拠点病院については、がん医療の均てん化を目指して整備が進められ、2013年4月現在、397施設の拠点病院が指定された。新しい拠点病院の整備指針では(2014.1 発出) 拠点病院が各施設で診療機能等を評価し、組織的な改善策を講じるPDCAサイクルを確保することが求められている。本研究の目的は、昨年度研究班が開発した緩和ケア施策の目標達成を評価するための15の指標のうち、拠点病院に関する2つの指標について現況報告を通して測定し、拠点病院の緩和ケアの提供体制に関するPDCAサイクルの確保に活用可能かどうか示唆を得ることである。

A. 研究目的

本邦では緩和ケアに関する様々な施策が実施されている。拠点病院については、がん医療の均てん化を目指して整備が進められ、2013年4月現在、397施設の拠点病院が指定された。新しい拠点病院の整備指針では(2014.1 発出)、拠点病院が各施設で診療機能等を評価し、組織的な改善策を講じるPDCAサイクルを確保することが求められている。本研究の目的は、昨年度研究班が開発した緩和ケア施策の目標達成を評価するための15の指標のうち、拠点病院に関する2つの指標について測定することを検討し、拠点病院の緩和ケアの提供体制に関するPDCAサイクルの確保に活用可能かどうか示唆を得ることである。

B. 研究方法

昨年度開発した緩和ケア施策の目標達成度を評価するための15の指標のうち、拠点病院に関する2指標【指標4. 専門的緩和ケアサービスの利用状況】【指標9. 地域多職種カンファレンスの開催状況】について測定することを試みた。

専門的緩和ケアサービスの利用状況については、専門的緩和ケアサービスの定義について、在宅療養診療所と訪問看護ステーションを含めて、どのように定義するか未確立な状況である。そのため、研究者で検討のうえ、拠点病院の現況報告の「緩和ケアチーム年間新規症例件数」と「緩和ケア外来年間新規症例数」で代理指標とすることとした。

地域対職種カンファレンスの開催状況については、多職種カンファレンスの定義として、「緩和

ケアに関する地域連携を推進するための、地域の他施設が参加する多職種連携カンファレンスを開催した年間回数(自施設が主催したカンファレンスのみ)」とし、拠点病院の現況報告で測定可能となるよう関係機関との調整を行った。

C. 研究結果

測定結果は別添資料3に示した。

D. 考察

拠点病院のPDCAサイクルの確保のためのモニタリング指標として、2つの指標の継続的な測定方法を確立し、測定を行った。指標の測定に使用可能なリソースは限られており、測定可能なデータを利用することや代理指標で測定しながら、データを蓄積していき、必要に応じて指標を改訂することが必要である。

E. 結論

指標を継続的に測定することで、拠点病院のPDCAサイクルの確保に活用できるか引き続き検証する。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表

中澤葉宇子, 加藤雅志, 吉田沙蘭, 宮下光令, 森田達也, 木澤義之. 緩和ケア施策の達成度を評価するための指標の開発に関する研究. 第20回日本緩和医療学会(予定)

G . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録

なし
3. その他
なし